

科学研究費助成事業（基盤研究（S））中間評価

課題番号	18H05234	研究期間	平成30(2018)年度 ～令和4(2022)年度
研究課題名	気球太陽望遠鏡による精密偏光観測：恒星大気における磁気エネルギー変換の現場に迫る	研究代表者 (所属・職) (令和2年3月現在)	勝川 行雄 (国立天文台・太陽観測科学プロジェクト・准教授)

【令和2(2020)年度 中間評価結果】

評価		評価基準
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、恒星大気中での磁気エネルギー輸送と散逸のプロセスを理解することを目的に、大気球太陽望遠鏡 SUNRISE の実現と数値モデリングを利用した研究を推進するものである。</p> <p>SUNRISE は国際共同プロジェクトであり、欧州側の進展の遅れによる遅延が見られたが、日本側の計画は順調に進んでおり、遅延期間中に事前準備を強化するなど、リスク低減に努めたことは評価できる。また、「ひので」衛星のデータ解析により、乱流に関する研究などにおいて科学的な成果を上げられ論文での発表もなされている。</p> <p>今後、飛翔実験の成功に向けて、ビデオ会議等を利用した情報共有の機会を頻繁に行うことを望む。</p>		